

Spire_M

音楽のおくりもの Information

小学校版

p.2 **すぐに表現するオペレッタ「てぶくろ」の実践**

— 登場する動物になって共通事項を実感する —

広島女学院大学准教授 森保 尚美



p.8 **開館20周年, 世界の音楽文化への入り口 「浜松市楽器博物館」**

インタビュー／館長・嶋和彦さん

p.14 **東北うたの本を歌う会**

元全日本音楽教育研究会中学校部会副会長
東北うたの本を歌う会実行委員 千田 彰武

教育出版

すぐに表現する オペレッタ「てぶくろ」の実践

—登場する動物になって共通事項を実感する—

広島女学院大学准教授 森保 尚美

1 音楽の授業とオペレッタ

低学年の担任をしていると、子どもがファンタジーを対象化せず、想像の世界に入り込む姿に出会うものです。子どもの成長にとって演じる行為にはどんな価値があるのでしょうか。また、教育という視点からみて、オペレッタ^{※1}にはどんな価値があるのでしょうか。私は、これらの活動することによって「共感力」「鑑賞力」を育てることができるのではないかと考えています。

認知心理学者の佐伯 胖^{さえき ゆたか}さんの著書によると、「結果主義」から脱して、ものごとを生み出す側（生成側）に立つには、「相手の身になる」ことが必要であり、発達は「共感的かかわり」の中で生まれるのだそうです^{※2}。私も、実践を通して、子どもは、関心をもつ世界を模倣することで見方や関わりを広げていっていると感じました。そして、歌ったり、演奏したり、つくったりする活動とともに、音楽を演じたり、からだで表したりする活動が、音楽を深く鑑賞し、子ども自身の音楽の価値を築くことにつながると考えるようになりました。

例えば、何かの対立があり、事実を根拠に論理的に説明するような場面でも、相手の状況に立って同意できるような提案でなければ、表現技術だけで事態を収めることはできないでしょう。私は、小学校の各教科を相対的にとらえたとき、音楽科では、相手に伝わる表現技術とともに、相手への共感力や、行動のきっかけとなる志、行為を生み出す原動力を育てる役割を担うことが重要だと思うのです。

小学校に勤務していた頃、低学年では想像力を働かせて何かになってみる活動を授業に取り入れてきました。ある時は、歌唱曲の歌詞中の登場人物に、ある時は鑑賞曲で表された動物になって想像したり、動いたり、会話したりするという活動です。上演用の劇は、表現結果としての出来栄が必要ですから、活動に多くの時間を要しますが、音楽の授業にオペレッタ的活動を取り入れることで、短時間でも取り組めるようになります。国語科でも文章を解釈するときに、短時間で身体活動を取り入れますが、なぜか音楽科の授業になると、長時間を費やして表現結果を整えたいくなります。でも、子ども自身の成長のためのオペレッタでは、音楽科らしい「わかり方」を促すことに力を注ぐため、出来栄の完全さは、それほど重要ではありません。

けれども、ただ楽しむだけでは、音楽学習としての発展が望めなくなります。そこで、学習指導要領の〔共通事項〕を意識して授業づくりを計画します。お話を読んで、歌を覚えたら、すぐに表現させてみましょう。その際、リズムや音の高さ、速さなどの特徴や効果をしっかり感じ取らせ、音楽を聴きながら音楽に合わせて動いたり、登場人物になりきってセリフを言ったりする活動を行い、音楽の中にある繰り返しや問いと答えの面白さを、お話と関連させて実感できるようにすることがポイントです。歌唱分野の授業では、歌詞の内容から情景を想像したり、歌の気持ちを解釈して、自分の思いや意図をもったりする学習過程がありますが、オペレッタは、歌曲よりも状況が明確なため、気持ちを想像して表現することに早く向かわせやすいという利点もあります。

（※1）イタリア語で「小さなオペラ」の意。歌とセリフのまじった喜劇的な内容のものが多い。

（※2）「共感—育ちあう保育のなかで—」ミネルヴァ書房 2013

2 絵本を素材とした創作オペレッタ

絵本「てぶくろ」(ウクライナ民話・福音館書店)は、おじいさんの落とした手袋を、登場する動物が発見し、次々に入っていくというあらすじで、手袋の外と中の動物たちの対話によってストーリーが展開していきます。このように、形が決まっていて、一貫した流れをもち、2つの対照的な問答型をもつ民話は、子どもが意識できる最初の文学ジャンルではないかと言われています。

幼稚園や保育園では、読み聞かせや劇の発表用に使われていますが、小学校では、音楽の問いと答えに必然性をもたせ、相手を意識して歌ったり、繰り返しの面白さを作品の内容とともに実感したりして、短時間で工夫して表現する教材として扱いましょう。登場する動物の名前を考えたり、セリフをつくったり、音楽に合う動きを考えて表現したりすることで、このオペレッタは子どもにとって音楽の意味を実感する活動になります。即時的な動きや即興的なセリフも大事にして取り組んでください。

このような考え方でオペレッタ活動を行えば、「遊び」で構成される保育課程と、「学習」で構成される小学校の教育課程がうまくつながり、子どもの連続した成長に寄り添う実践になるでしょう。実際の実践では、特別支援学級の子どもたちも打楽器で歌の伴奏に参加しました。次頁から掲載する楽譜と台本は、一部だけ使ったり、自由に組み合わせたりして、みなさんの学校に合わせて使ってみてください。オペレッタ活動で喚起される子どもたちの想像力は、いつの日かグローバル社会における協同的な態度へとつながっていくと信じています。



てぶくろ
ウクライナ民話
エウゲーニー・M・ラチョフ絵
内田莉沙子訳
福音館書店

3 指導計画例

ねらい 登場する動物になって、問いと答えで表現しよう。

第1次	第1時	教材提示装置で絵本を投影し、児童が順番に音読する。 気付いたこと、好きな場面、面白かった場面を伝え合う。 「ねずみの歌」「動物たちの問答歌」を覚える。
	第2時	希望児童による問答歌をモデルとし、全体で鑑賞する。 音楽に合わせて、登場する動物になって表現する。
第2次	第3時	グループごとに場面を分け、手袋の外と中に分かれて表現する。
	第4時	グループごとに発表し、問いと答えの表現のよさや、音楽と動きの関連のよさを観点として鑑賞する。



すぐに表現するオペレッタ「てぶくろ」の教材性



- 仕組みがシンプルで、動物の名前や、セリフなどに児童の発想を活かしやすい。
- 問いと答えの形が決まっていて覚えやすいため、短時間で表現できる。
- リズム・音の高さ・動き・イメージの関連などについて、実感を伴った理解ができる。
- 登場する動物の数を設定時間に合わせて調整したり、配役を複数にしたりするなど、学校や子どもの実態に合わせることができる。
- 高学年で、登場の音楽をつくる活動として扱うこともできる。



登場の音楽



森保尚美 作曲



登場の音楽：ポイント

★動物のキャラクターや児童の動きに合わせて演奏しましょう。

例1) 2小節めまでのリズムを変える。(下記は右手の動き。左手は右手と同じリズムで2小節めまでの和音を弾く)



例2) 音の高さを変える。

かえる…1オクターブ高く くま…2オクターブ低く



ねずみの歌



森保尚美 作詞・作曲

ねずみの歌

これ は いいな これ で ふゆも へーっ

(前 奏)

chra sa so to no fu bu ki mo nan no so no u re shi i na

8va

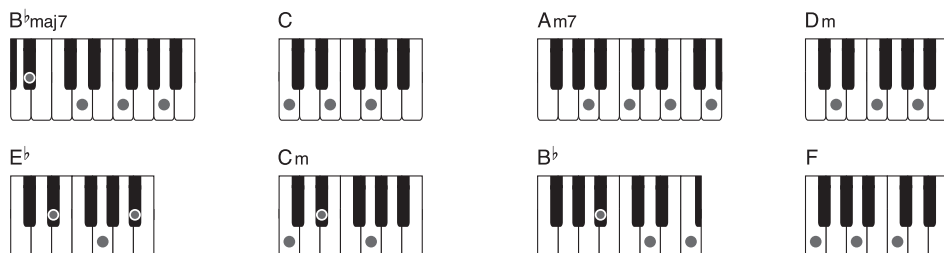
8va

B^bmaj7 C B^bmaj7 C E^b Dm Cm B^b Cm F Cm F

ねずみの歌：ポイント

- ★歌と楽器が問いと答えになっています。場面と旋律の動きを意識して表現するように働きかけましょう。
- ★音程の取りにくい児童には、先行して歌の旋律を演奏し、児童が範奏を聴いて歌うようにしてみましょう（歌と *pf.* を逆にする）。
- ★コードネームの音を使って、いろいろな伴奏形をつくってみましょう。
- ※最初にてぶくろを発見した「ねずみ」だけ他の動物たちと異なる歌にしています。

【使用するコード一覧】



動物たちの問答歌

森保尚美 作詞・作曲

♩=84~90

これはいいな あた たかそうだ そとはさむいよ ()

pf.) いれ てください (*pf.*) どう

ぞ どうぞ おは いりなさい ありがとう (*pf.*)

動物たちの問答歌：ポイント

- ★前奏と伴奏の和音（コードネーム）は、「ねずみの歌」と同じです。
- ★向き合って歌い合うことで、方向や意味を伴った「問いと答え」を経験できます。
- ★ビブラフォンやキーボードの音色も合うので、一緒に演奏してもいいでしょう。
- ※「てぶくろに入れてください。」という問いかけに、「どうぞ。」と応じる問答歌にしています。子どもたちは、兄弟姉妹や親子など様々なパターンで動物たちの登場場面をアレンジしていました。

5 台本の例

ナレーター：ここはウクライナの森の中。いろいろなどうぶつがすんでいます。

あれ、むこうからだれかやってきますよ。

おじいさん：ああ、もう冬がやってくるな。おや、雪も ちらついてきたぞ。

ナレーター：おやおや、おじいさん、だいじなだいじな
まっ赤なてぶくろを落としてしまいましたよ。



♪《登場の音楽》ねずみの登場

ね ず み：あれ～、何だろう？ 中に入ってみようっと。わあ、あったかい。
しばらくここでくらすことにしようっと。

♪《ねずみの歌》あたたかいな これで冬も へっちゃらさ
外のふぶきも なんのその うれしいな

♪《登場の音楽》かえるの登場

か え る：あれ～、何だろう？ だれかすんでいるの？

ね ず み：くいしんぼうねずみよ。あなたはだあれ？

か え る：ぴょんぴょんがえるよ。わたしも入れて。

♪《動物たちの問答歌》

※登場した動物と、てぶくろの中の動物たちに分かれて歌う。以後同じ。

か え る：♪これはいいな あたたかそうだ
外はさむいよ 入れてください

ね ず み：♪どうぞどうぞ お入りなさい

か え る：♪ありがとう

ナレーター：ほら、もう〇〇ひきになりました。



♪《登場の音楽》うさぎの登場

う さ ぎ：あれ～、何だろう？ だれだい、なかに入っているのは？

どうぶつたち：くいしんぼうねずみと ぴょんぴょんがえる。あなたはだあれ？

う さ ぎ：はやあしうさぎさ。ほくも入れてよ。

♪《動物たちの問答歌》

ナレーター：もう〇〇ひきになりました。



♪《登場の音楽》きつねの登場

き つ ね：あれ～、これなあに？ だれかすんでいるのかい？

どうぶつたち：くいしんぼうねずみと ぴょんぴょんがえると はやあしうさぎ。あなたはだあれ？

き つ ね：おしゃれぎつねよ。わたしも入れて。

♪《動物たちの問答歌》

ナレーター：これで〇〇ひきですね。でも、また だれかやってきましたよ。

♪《登場の音楽》おおかみの登場

お お か み：お～や，何だろう？ だれがすんでいるのだ？

どうぶつたち：くいしんぼうねずみと ぴょんぴょんがえと はやあしうさぎと
おしゃれぎつね。あなたはだあれ？

お お か み：うお～，はいいろおおかみだよ。おれも入れてくれよ。

♪《動物たちの問答歌 前半・いれてください》まで歌う》

どうぶつたち：どうする～？ まあいいや。どうぞ。

♪《動物たちの問答歌 後半・どうぞどうぞ》から歌う》

ナレーター：またまた だれかやってきます。だれでしょう？

♪《登場の音楽》いのししの登場

い の し し：ふるん，ふるん，ふるん。なんだろう？ だれだね，てぶくろにすんでいるのは？

どうぶつたち：くいしんぼうねずみと ぴょんぴょんがえと はやあしうさぎと
おしゃれぎつねと はいいろおおかみ。あなたはだあれ？

い の し し：きばもちいのししだよ。わたしも入れてくれ。

♪《動物たちの問答歌 前半》

どうぶつたち：どうする？ もうむりです。

い の し し：いや，どうしても入るぞ。

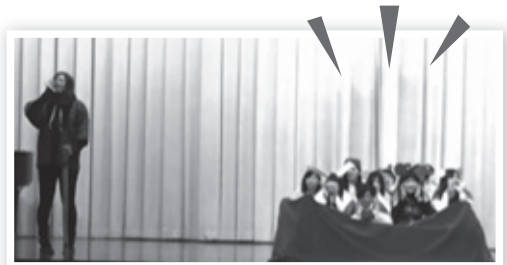
どうぶつたち：どうする？ じゃあいいや。どうぞ。

♪《動物たちの問答歌 後半》

ナレーター：もう これで何ひきになったでしょう？

てぶくろは，ぎゅうぎゅうづめです。

おや，またなにか もの音がします。だれでしょう？



♪《登場の音楽》くまの登場

く ま：だれだ，てぶくろにすんでいるのは？

どうぶつたち：くいしんぼうねずみと ぴょんぴょんがえと はやあしうさぎと
おしゃれぎつねと はいいろおおかみと きばもちいのしし。あなたはだあれ？

く ま：うおー，のっそりぐまだ。おれも入れてくれよ。



♪《動物たちの問答歌 前半だけ》

どうぶつたち：とんでもない。もう入れないよ。

く ま：いや，どうしても入るぞ。

どうぶつたち：う～ん，しかたがない。でも，ほんのはじっこにしてください。どうぞ。

ナレーター：そこへおじいさんがてぶくろをさがしに帰ってきました。

おじいさん：おやおや，なんだかむくむくうごいているぞ。だれか入っているのかな？

どうぶつたち：わあ～～～～～～！！（てぶくろからとびだしながら）

ナレーター：みんなはあわてて 森のあちこちにげていきました。

－おわり－

開館20周年、世界の音楽文化への入り口

「浜松市楽器博物館」

インタビュー

館長・嶋和彦さん

聞き手／構成・音楽編集部

今年4月に開館20周年を迎えた浜松市楽器博物館。日本で初めての公立の楽器博物館として、「世界の楽器を偏りなく同じ目線で平等に展示する」というコンセプトのもと、世界中から集められた資料のうち約1300点を常時展示している。展示以外にもレクチャーコンサートやワークショップ、アウトリーチ、CDやDVDの制作など、様々な取り組みが行われてきた。

「楽器博物館として研究、教育、普及活動に取り組み、民族音楽学に大きく貢献」したとして、世界的に権威のある小泉文夫音楽賞※（2014年度）を受賞するも、「まだまだ成長途上」と話すのは館長を務める嶋和彦さん。ご自身と楽器との出会いから、楽器博物館の取り組みや今後の展望に至るまで、興味深いお話をたっぷり伺った。

※小泉文夫音楽賞は、世界の民族音楽の研究に生涯を捧げた元東京藝術大学教授 小泉文夫氏（1927～83年）を記念して、民族音楽学の分野でユニークな音楽研究または音楽活動をした個人あるいは団体の業績を顕彰するために設定された。

中学校教員から博物館職員へ



子どものころから音楽が好きでした。大阪府豊中市の出身ですが、高校生の頃から音楽活動をしていました。大阪音楽大学の元学長兼理事長の西岡信雄先生（浜松市楽器博物館名誉館長）にリコーダーと民族音楽を師事し、リコーダー・アンサンブルで演奏したり、子どものリコーダー・オーケストラを指導したりしていました。

大学卒業後、音楽活動は継続して行っていましたが、仕事としては地元公立中学校で英語科教員を務めていました。1990（平成2）年からはインドネシア・ジャカルタ日本人学校に転出していたのですが、ちょうどそのころ浜松市が全国初の公立の楽器博物館を設立する計画を進めていました。そして、その設立に向けて市のアドバイザーとして関わっていらっしゃったのが恩師の西岡先生だったのです。

いよいよ博物館オープンが目途が立った段階で西岡先生から連絡がありました。「浜松の楽器博物館の学芸員をやってみないか」。それまで浜松とは何の縁もなかったんです。東名高速道路を走っていて浜名湖サービスエリアに立寄るくらいで、浜松のインターを降りて市内に足を踏み入れたことはなかった（笑）それで転職を決めて、浜松に来たのが1994（平成6）年4月。それから1年間、博物館の設立準備に携わって、翌年4月に浜松市楽器博物館が開館しました。



日本初、浜松発の公立の楽器博物館



楽器博物館は、国立音楽大学¹にも武蔵野音楽大学²にも、それから大阪音楽大学³にもあります。しかし、それらはいずれも私立の音楽大学の附属施設です。ですから学生と教員のための教育・研究施設としての機能が第一であり、市民に対して開放する義務はない。一般の人にサービスとして開放はしているけれど、土曜・日曜や夏休みは閉館していることが多かったです。

一方で、浜松は公立の博物館です。博物館には資料の保存や修理、研究など、様々な役割がありますが、そのなかのひとつに一般市民への社会教育ということがある。学校ではないけれど、教育機関。そういう意味で、ここで働く職員には研究・発信という役割と同時に、おじいちゃんから子どもまで、多くの人々に対していろいろなことを伝えるという、いわば学校の先生のような役割もあるわけです。

ところで、なぜ浜松市が楽器博物館を設立したのでしょうか。

浜松市は、1980年代から「音楽のまちづくり」政策を進めてきました。「音楽のまち」というのは浜松だけでなく、日本各地にあります。例えば神奈川県川崎市がそうですね。しかしながら、日本における「音楽のまち」というのは、どこの「まち」も基本的には「西洋音楽のまち」です。日本人にとって音楽イコール西洋音楽、それもクラシック音楽。確かに日本における西洋音楽のレベルはすごいです。世界的な演奏家や研究者から一般愛好家までたくさんいます。ただし、音楽ジャンルとしては——西洋音楽に限ってもなお——ほんの一部分に過ぎない。それに加えて各地の「音楽のまちづくり」のコンセプトは、演奏活動を盛んにし、文化的な「まち」にしよう、というものがほとんどだと思います。

では、「音楽のまちづくり」を進めるうえで浜松の独自性となるものは何か。それは、日本の洋楽器産業発祥の地にして世界的な楽器メーカーがある、ということです。日本国内において西洋楽器製造が地場産業となっている「まち」は浜松のほかにはない。そこで、この世界的な地場産業を特色としつつ「音楽のまち」を特徴付けるためには、単なるホールでの演奏活動ではなく、何かしらシンボルが必要となります。それこそが日本にはまだなかった公立の社会教育施設としての楽器博物館だったのです。

¹ 国立音楽大学楽器学資料館 ² 武蔵野音楽大学楽器博物館 ³ 大阪音楽大学音楽博物館



▲館長・嶋和彦さん



▲（左から）薩摩琵琶、筑前琵琶、平家琵琶



▲ 100 点以上が展示されているアフリカの楽器

世界の音楽を全部一緒に



楽器博物館設立の計画が進められていたのは、政治的にも民族紛争が激化していた時代でした。学校教育においてもいろいろな国の文化を勉強しましょうということで、音楽の授業でもようやく邦楽をはじめとする諸民族の音楽が取り入れられてきました。



浜松は西洋楽器産業発祥の地であるから、ピアノだけの博物館にしたとしてもおかしくはない。でも、そうはしなかった。せっかくだから世界中の楽器の博物館にしよう——。そこで世界に先駆けて取り入れられたコンセプトが、「世界の楽器を偏りなく同じ目線で平等に展示する」だったのです。これは特筆すべき点だと思います。また、楽器はモノだけれど、その背後には当然音楽が、人間の文化がある。そういった目に見えないコトも紹介していこうということを大きな方針として決めました。

そういう博物館ですから、西洋音楽のことは知っているけれどほかの音楽のことはよく知らないとか、西洋音楽は大好きだけれどアジアの音楽は聴くのも嫌だ、というのでは職員は務まりません。たったひとつのもののさしのうでで考えるのはナンセンス。ですから、この博物館は西洋音楽をやみくもに素晴らしいというのではなく、反対に、日本の楽器は世界一だといった偏狭な愛国主義にもならない。全部一緒。なかば冷たい、一歩突き放した感覚が必要になります。もちろん個人的に好きな音楽はありますよ（笑）しかし、それは好き嫌いの問題であって、価値観の問題ではない。いろいろな文化に均等に接することが大切です。

例えば、音楽大学を卒業した人で、絶対音感を持っているんだけど、十二平均律ではない音階を聴いたときに気持ち悪いと感じてしまう人がいる。でも、私は思うのです。「それは何のための絶対音感なのか」と。どんな音楽も不快感をもたずに聴けて、楽器と音楽の背後にある人間の生活に対して学問的アプローチができる人。なおかつ子どもにもわかりやすく伝えることができる人。世界に向けて発信することを考えたら英語もできなければならない。そのような人が職員として理想です。どんな施設でもそうですが、どんなスタッフがいるかで施設の性格や価値は決まってくるものです。

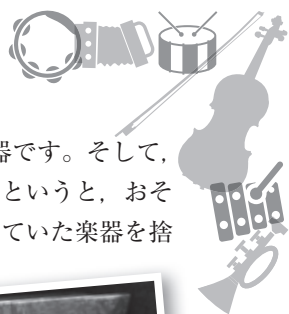
楽器を集め、展示する



楽器博物館が開館した当初は、ヨーロッパの楽器と日本の楽器しか展示がありませんでした。収集未完成のままオープンしました。アジアやアフリカの楽器を少しでも展示するようになったのは翌年の1996（平成8）年、現在のような展示になったのは2006（平成18）年のことです。今年でちょうど10年めになります。

楽器収集に関して、こんなエピソードがあります。楽器博物館では市民をはじめ、一般の人からの寄付も受け付けているのですが、2000（平成12）年頃から足踏み式のオルガンがどんどん集まりはじめ





ました。いくら欲しいと思ってお金を積んでも、今では楽器店では売られていない楽器です。そして、それは浜松の楽器産業のルーツでもあります。どうしてそういう楽器が集まりだしたかという、おそらく家を建て替えたり、蔵を壊したりする時期に重なったのだと思います。そこで眠っていた楽器を捨てるのはもったいない、ということで当館に寄付して下さった。全部で50～60台はあります。なかでも珍しいのは、田中^{しょうへい}正平（1862～1945）という人がつくった「純正調オルガン」。日本には現物は4台しかないです。また、楽器の下部を布で囲った「大和オルガン」は西洋楽器に日本の美を融合した素晴らしいものだと思います。

楽器ではないけれど、切手の展示があります。展示されているのはほんの一部ですが、所蔵は全部で3万枚ほどあります。世界最大のコレクションです。現物はなくなってしまった楽器が描かれている切手もあって、資料として貴重です。

こつこつと真面目に活動が続けていると、「浜松になら寄付してあげよう」という気持ちになってくれる人が現れます。これはありがたいことです。今も年間平均で10件前後の寄付の連絡があります。まだまだ欲しい楽器はいっぱいありますよ（笑）

また、現在展示コーナーが設けられている電子楽器ですが、これは2003（平成15）年に開催した「楽器と20世紀～夢と憧れ・創造と忘失～」という特別展がきっかけとなっています。日本を代表する電子楽器のメーカー各社から、自社に飾っていた貴重な電子楽器などを「多くの人に見てもらいたい」ということで、無期で貸し出ししていただいたりして展示しています。50代後半から60代の人が若かりし頃に使っていた思い出の楽器や類似品があるので、子どもと一緒に来たお父さんが楽器の前で自慢話をしている光景をよく見かけます（笑）

何百年前の楽器も大切ですが、現代の楽器も大切です。例えば美術館に行くと、昔の絵画を展示している横で、今を生きる作家の作品も展示していたりしますよね。博物館だって同じです。昔のもののばかりじゃなくて今のもも展示してしかるべきです。今集めたら100年後には100年前のものとして価値が出てくるのですから。ただ、電子楽器などは日進月歩で、毎年モデルチェンジするから集め出したらきりがありません。本当はアメリカ製の古いギターなども展示したいのですが……。楽器博物館は、音楽のジャンルを超えて、音楽や楽器とは何だろう、ということを考える場になったらよいと考えています。



▲純正調オルガン



▲電子楽器の展示コーナーに並ぶ希少なシンセサイザー



原則として展示ケースに入れない「露出展示方式」なので、楽器の質感を間近に味わえる。

博物館、小学校へ行く



たくさん子どもに楽器博物館を見てもらいたいと思っていますが、浜松市は交通の便が悪いので、郊外に住んでいる子どもたちが博物館のある市街地まで来るのはなかなか大変なことです。だったら楽器博物館から郊外に行きましょう、ということで2000(平成12)年から始まったのが市内小学校への「移動楽器博物館」というアウトリーチプログラムです。毎年数校で開催しています。単に楽器を展示して見てもらうだけではなく、楽器やその国の人びとの暮らしについて話をしたり、実際に楽器の演奏を体験してもらったりすることで、世界の人びとの暮らしについての理解を深めることを目的としています。子どもたちには大人気です。移動博物館をすると、だいたい各学校で一人か二人、楽器ファンができて、休みの日に博物館まで来てくれることもあります。

まだまだ成長途上の「入り口」

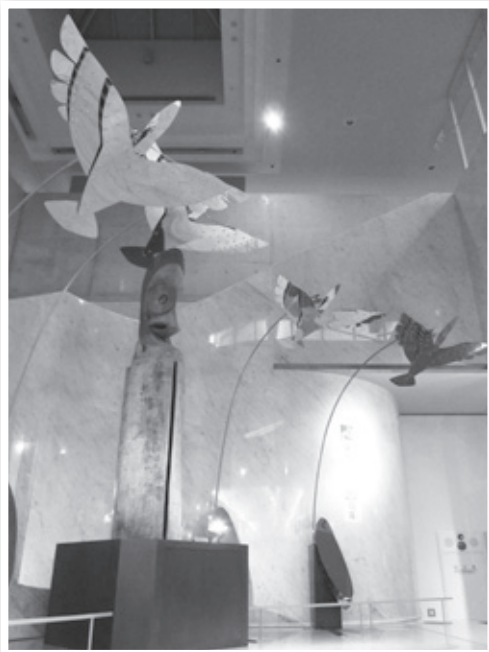


ものごとは何でもそうですが、ある日突然変わるなんてことはありません。バロック時代のチェンバロから、いきなり現代の黒いグランドピアノに変化したと思っている人がどれほどいるかわかりません……。常に様々なものごとはお互いに重なり合いつつ、その中からだんだんと多数派が形成されていきます。こういう歴史観をもたずに「今の最新のグランドピアノでベートーヴェンを弾くのが最高!」と言うのはおかしいです。だって、ベートーヴェンの時代に今のような大きなピアノはなかったでしょう!?(笑)

では、そういうことを知るにはどうしたらよいのか。もちろん本やインターネットで調べれば知ることとはできます。ところが、そこにたどり着く人は、最初から楽器や音楽に興味のある人です。一方で楽器博物館は、時間潰しでたまたま立ち寄るという人もいます。そういうごく一般の人が、展示を見てまわっているうちに楽器に興味を持つということもあります。そこがポイントではないでしょうか。すごくうまくピアノを弾ける人から音楽にコンプレックスを持っている人まで、実にいろいろな人が訪れます。そういう人びとに対して、それぞれのレベルでいろいろな刺激を与えるということが大切だと考えています。

さらに、私が大事だと思うのは、「知っていることより知らないことの方がよっぽど多い」ということを知っているかどうかです。知らないけれど知った気持ちになっているのが、いちばんよくない。仕事柄、プロからアマチュアまで多くの音楽家に接してきましたが、すばらしい音楽家ほど謙虚です。「知らない」ということをよく知っています。何にも知らない人ほどテレビに出て知ったようなことを言っている(笑) そういうふうにならないように、気を付けています。

浜松市楽器博物館は20周年を迎えましたが、まだまだ成長途上です。どこの博物館にしても、博物館に完成ということはありません。常に成長、常に変化しなければならないです。これでいい、ということはない。子どもがいろいろなことを知りたい、学



◀地下展示室の一角にある「天空ホール」
バヌアツの世界最大のスリットドラムがシンボル



びたいと思うのと同じように、博物館というのもひとつの有機体としていろいろなことを吸収して成長していかなければなりません。1年間でやれることにはキリがあるので、少しずつしか変わらないですが……。

どの国の音楽も楽器も本当にすごいです。楽器は、それが使われていた当時の社会と密接に結びついていて、そういう意味でもとても奥深い。ところで、「楽器博物館だから音楽でしょう？」って思う人がいるかもしれませんが、私は「楽器博物館だからこそ美術ですよ」と言いたくもなります。楽器が映し出すのは民族の模様です。デザインの見本です。ここに美術の先生が来たら、ものすごいインスピレーションを得られると思いますよ。楽器の背後にある人間の生活、それを知るためのひとつの手掛かり、入り口。それが浜松市楽器博物館です。



▲所蔵楽器を用いたコンサートも行われている
(演奏・川口成彦／フォルテピアノ)



▲思わず見入ってしまう奇抜なデザインの
「ジラフピアノ」



▲楽器を前にして、その演奏の様子を映像で楽しめる



▶様々な形をした
「ヴァイオリン」

浜松市楽器博物館

●住 所／〒430-7790 静岡県浜松市中区中央3-9-1 (JR浜松駅北口より徒歩10分)

●電話番号／053-451-1128

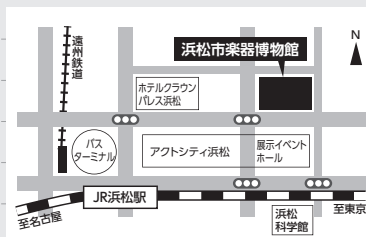
●開館時間／9:30～17:00

●休 館 日／毎月第2・4水曜日(祝日の場合は翌日、8月は無休)

館内整理・施設点検日、年末年始、その他臨時休館日

●入 場 料／大人400円、高校生200円、中学生以下無料(団体割引あり)

<http://www.gakkihaku.jp/>





東北うたの本 を 歌う会

元全日本音楽教育研究会中学校部会副会長
東北うたの本を歌う会実行委員 千田 彰武

「南部の空で はぐれた雁か」、「丘の日差しは あかるくて」、「晴れたお空に 蝶々がとんで」、「なつのおまつり たなばたまつり」、アメリカ軍の大空襲により焼け野原となってしまった仙台、昭和21年2月になるとラジオから澄み切った美しい児童合唱が次々と流れ出した。仙台放送児童合唱団の歌声である。翌年には、土曜日の夕方になると「東北うたの本」という番組名で、新しい童謡が放送された。戦後、夕暮れどきにラジオから流れる児童合唱は、テレビも無く娯楽の乏しい子どもたちにとって、何よりの楽しみであった。家族でラジオに聴き入り、口ずさんだ歌は、子どもたちのみならず戦争で全てを失ってしまった人々に夢と希望・生きる喜びを与え、ともすれば沈みがちな心を明るく、豊かにしてくれた。

杜の都と呼ばれている仙台では、大正7年からの「赤い鳥」運動の影響を受けたこともあり、早くから児童文化の花が大きく開いた。鈴木三重吉によって創刊された「赤い鳥」に投稿したスズキヘキと天江富弥は、大正10年に「おてんとさんの会」を設立した。スズキヘキは子どもたちに童謡を教え、天江富弥はわらべ唄の採譜にも力を尽くした。詩人野口雨情も協力を惜しなかった。童謡・童話・影絵等を中心に、さまざまな活動をしてきた「おてんとさんの会」も、残念ながら戦争が始まると活動の中止に追い込まれていく。しかし、戦争が終わり食糧難に喘ぎながらも、仙台には全国に先駆け次代を担う子どもたちの心の育成のために立ち上がった文化人たちがいた。昭和20年には「唱歌と童謡」、次に「うたのおけいこ」、そして昭和22年から「東北うたの本」として17年間、55曲の新しい子どもの歌が生まれた。作詞

は富田博、刈田仁、スズキヘキ、永野為武（小名木滋）、濱田廣介、草刈辰雄、草刈亀一郎等、作曲は、福井文彦、海鋒義美、佐藤長助等があたった。もちろん、この他に仙台中央放送局・東北文芸協会の関わりも大きかった。特筆すべきことは、「赤い鳥」で活動した作詞・作曲家が「東北うたの本」にも大きな足跡を残していることである。「叱られて」「靴が鳴る」等を作曲した弘田龍太郎、「夕焼け小焼け」「揺籃のうた」等を作曲した草川信、「月の沙漠」「お山の杉の子」等を作曲した佐々木すぐる、「里の秋」「みかんの花咲く丘」を作曲した海沼実、「たき火」の作詞をした異聖歌等が「東北うたの本」に積極的に関わり、作品を届けていることである。物資が乏しく、食べるものも十分でなかった時代、子どもたちは春になると一斉に咲き出す花々や土筆と遊び、夏は小川で魚取り、セミ、ホタルと戯れ、秋は紅葉、栗拾い、夜にすだく鈴虫の声に耳を澄まし、トンボを追いかけて、冬は雪合戦やそり滑りに興じ、四季折々、美しく変化する自然と、生活に密着した夏祭り・秋祭り等の地域の行事を楽しんだ。異年齢の友達と一緒に遊ぶことで社会性を身につけ、遊びを工夫することにより創造性を培い、命の尊さや弱いものに対する思いやりを育んできたのである。これら全てが「東北うたの本」の中に表されている。

その中から「仲よしの歌」と「春のあしおと」の2曲は、教育出版発行の小学校音楽5年生教科書に長く教材として取り上げられた。東北のみならず全国で歌われ、今日まで歌い継がれている。しかし、子どもたちの生活環境は大きく変化し、遊びにも情報化の波が押し寄せている。東日本大震災は、未曾有の被害をもたらし、多くの子ども

たちの心に癒やすことの出来ない傷を負わせた。災害から4年・5年と月日が経ち、徐々に復興の道を歩き始めたこの時期に、在仙の作曲家・合唱関係者・音楽教育家の力を結集し、この大切な児童文化遺産である「東北うたの本」を次世代に残そう、という大きなうねりが湧き起こり、「東北うたの本を歌う会」が発足した。音楽を通して子どもたちの心を豊かに育てる、ということは、「東北うたの本」を心の糧として生きてきた年代の使命ではないか、という思いである。

「東北うたの本を歌う会」が事業として準備を進めているのは二つ。

1. 当時5冊に分冊され、印刷も不鮮明な55曲をまとめて鮮明な1冊の曲集として復刊し、12月末までに宮城県内全ての小学校・中学校・高等学校・大学、教育施設及び市町村の図書館及び岩手県と福島県の沿岸部の小・中学校に寄贈する。その数、約1,500部。その他この事業に協賛として参加する企業や個人に、約1,000部を贈呈する。この曲集には、音源としてQRコードをつけるが、その演奏はオリジナルの楽譜を使用し、当時の仙台放送児童合唱団（現HKジュニア・コーラスOG会）のメンバーが担当した。

2. 平成28年3月26日（土）13時から日立システムズホール仙台（仙台青年文化センター）において「東北うたの本全55曲」の演奏会を開催する。

このコンサートに出演予定の団体は、HKジュニア・コーラスOG会。当時の仙台放送児童合唱団のメンバーにより昭和52年に復活した団体である。「東北うたの本」全55曲中、15曲を作曲した海鋒義美の指導のもと、毎年のように演奏会を開催してきた。海鋒義美亡き後は、当時からの指導者であった曾我道雄が指揮をし、QRコードの録音も担当した。その他仙台童謡愛好会、NHK仙台青少年少女合唱隊、仙台市小学校音楽教育研究会、仙台市中学校音楽教育研究会、宮城県高等学校音楽教育研究会、宮城学院中学校・高等学校・女子大学、その他10団体の出演が決まっている。特別参加として、平成16年には弘前大学で「東北うたの本」のコンサートが開催されたので、そ

の縁で弘前からレディースコーラス・レリアの出演がある。

運営面では、海鋒義美の長男で合唱指導者の海鋒博美を事業の実行委員長に、在仙の音楽関係者40名が実行委員として携わっている。そして、自ら東北電力男声合唱団ミッターゲッセン・コールのメンバーとして歌っている「東北うたの本を歌う会」協賛会会長・東北経済同友会会長高橋宏明氏の強力なバックアップがあり、地元の有力紙「河北新報」は共催として社告や記事を掲載する。同様に共催の音楽科を有する宮城学院女子大学からは、平川新学長はじめ、音楽科諸先生方のご理解と協力のもと、コンサートの出演、合同合唱の練習場の提供、大学生による運営補助、QRコードの録音場所の提供、財政的な援助と、事業成功のためにさまざまな支援をいただき、心強い限りである。

東日本大震災の被災地では、津波で家族を失い、原発事故でふるさとを奪われ、復興は徐々にしか進んでいない。未だ仮設住宅から通学している子どもたちもいる。今回の二つの事業には、被災地の子どもたちが心を豊かに、そして、明るく生きてほしいという願いも込められている。

生涯を通じて私には歌があった。

ブルーノ・ワルター（指揮者）





第13回

まもなく締め切り!!

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2015年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2015年7月1日 ~ 9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境 や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交 流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



川が...

近所の川はきれいですか? それともきたないですか? ぼくは、京都へ帰省した時に、七谷川という川へ行きました。そこは、水がとてもきれいでとうめいでした。サワガニやヤゴ、カワヨシノボリなど、きれいな川にしかない生き物がいました。最近、トンボが少なくなってきたと聞いたことがあります。川が汚れて、ヤゴが育たないみたいです。ヤゴやカワヨシノボリ、サワガニが、住みやすいこのようなきれいな川を守りつづけています。

小学音楽通信 **Spire_M** (2015年 秋号) 2015年9月1日 発行

表紙写真撮影協力: 浜松市楽器博物館

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光
印刷: 大日本印刷株式会社 発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E 室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411